

飛驒地域議員研修会を開催

～これからの議会改革に期待されるもの～



平成27年11月30日、飛驒地域議長サミット主催による飛驒地域議員研修会が、3市1村の議会議員55人の参加のもと本市で開催されました。

当日は、自治体議会改革フォーラム代表である法政大学法学部教授の廣瀬克哉ひろせかつや氏から「これからの議会改革に期待されるもの」とのテーマでご講演いただきました。

その内容の一部を紹介します。

議会の活性化は市民にとってメリットか？ ～議会のレベルアップが行政の質を高める～

議会改革は次のステップへ ～問われる成果～

全国で700を超える自治体が議会基本条例を制定し、議会改革は着実に普遍化してきた。

高山市議会は議会改革度において全国でも上位にランキングされているが、次のステップとして実体的な「成果」が問われている。

議会審議の活性化によるメリット、開かれた議会の実現による効果、政策機能の強化による市民への恩恵などが、実感されることで「私たちの声は届いている」と、信頼される議会となると感じている。

発見のあるドラマチックな議会審議へ ～多角的なチェックと多様な民意の吸い上げ～

一問一答や反問権・議員問討議など質問・質疑を変える工夫や、基礎資料の充実など出揃ったツールをいかに使いこなすか、また、地域へ出向いての市民意見交換会や公聴会・参考人招致など、市民との関係を変える方策の積極的な活用がカギとなっている。

議論を通じて論点・争点を見える化し、何が課題かをあぶり出すプロセスを踏むことで、議会を通ることによる「意思決定の品質保証」が信頼を生み出すと考える。

高山市議会は議会基本条例を制定して5年という節目にあたり、①議員の身分・待遇、②議員の政治倫理、③議会活動の評価、④議会と市民の関係、⑤議会活動、⑥議会の体制整備等を論点として、全議員による議論の場として「議会基本条例推進協議会」を設置し、分科会やワーキンググループ方式を取り入れながら、議会改革の検証を進めています。廣瀬克哉教授には高山市議会のアドバイザーとして今後ご指導いただくことになっております。

手間のかかるプロセスこそ大事

仮に「原案のと通りの可決」であったとしても、「すべて市長にお任せ」という可決の場合と、議会が「多様な角度からしっかりとチェック」した上での可決とでは、決定の質や信頼性がまったく違います。

手間のかかる議会審議が必要なのは、そういう質を確保するためなのです。

法政大学教授 廣瀬克哉